

箕面自由学園中学校・高等学校 生徒の皆さん、保護者の皆様へ

「我慢の春」が続いております。

新型コロナウイルスによるパンデミック、ここ数日で、私自身のとらえ方も刻々と変化しています。

アメリカやヨーロッパで起きているできごと、やがてはわれわれにも同じような惨劇が起こりうる可能性があるということ、「日本だけは大丈夫」というのが盲目的な過信であったということ、そして、その被害が医療体制の整っていない、いわゆる発展途上国で大流行し、大きな被害をもたらすであろうことが現実味をおびてきたということを再認識する必要があります。

まず、今、われわれのできること、自分の周辺にコロナを持ち込ませないことです。

すなわち、「出歩かない。stay home」です。

コロナ自身のおそろしさは、報道されている通りです。3月初旬には、「若年層は感染しない」ということが報道され、若年層の気のゆるみもありました。

そのころは、世代によってコロナのとらえ方に違いがでておりました。ただ、4月1日現在で、世界でも日本でも若年層の感染、そのことによる死が数多く報道されてきています。

また、いわゆる医療崩壊、「いのちの選別」が世界各国で始まっています。

私がくどくど書くよりも、日々報道されている世界の状況、現場からの悲痛な声を自分事として聞いてください。

決して他人事ではありません。「自分のこととして」です。

「2週間後、3週間後に東京が、大阪がニューヨークと同じ状況になっている。」という可能性を否定できる人はだれもおりません。

私は、中・高 2000 名の生徒、150 名の教職員の組織の長として、「いのちを守る」ことを最優先にしたいと考えます。あたりまえのことです。しかし、この「パンデミックをどうとらえるか」、まだまだ日本では甘くゆるく考えています。罹患してからでは遅いんです。今、我々がやらなければならないこと、それは「自分の命を守ること」、すなわち「コロナから遠ざかること」なのです。

学校行事、ころころ変わって大変、申し訳ありません。

しかし、われわれも常に情報を集め、生徒たちにとっての最善の策を常に模索しております。

中学校・高等学校長として、「緊急事態宣言」を出したとお考えください。

私の言っていることが取り越し苦労であったならいいと思いますが、生徒とご家族の命、教職員とその家族の命を最優先に考え、校長として意思決定しています。

ご協力をお願いします。

1 か月半ほど前までの平和な日々がどんなに幸せだったか、思い知らされています。

ここは我慢すべきことは我慢しましょう。

生徒たちとまた会える日を楽しみに、日々耐えて過ごそうと思います。

2020 年 4 月 4 日

箕面自由学園中学校・高等学校長 田中良樹